

---

---

ラヴェンナの皇帝モザイク—造形原理的・発展史的考察—

---

---

・講演要旨

北イタリアの古都ラヴェンナには、古代末期キリスト教美術の優れたモニュメントが今なお、多数、残っていて、古代から中世への転換期の美術を考える場合、きわめて重要である。本研究報告で取り上げる、有名な皇帝モザイクがあるサン・ヴィターレ聖堂は540年頃建設され、問題とするモザイク装飾は、546年と548年の間に施されたものと考えられている。

この聖堂のアプシス底部の左右の側壁を飾る2つのモザイク・パネルには、多数の従者を伴ったビザンティン皇帝ユスティニアヌスとテオドラ妃が、一段と高くアプシス奥の中央に配されたキリストに、それぞれ、聖餐式の最も重要な用具を捧げる奉納儀式が表わされている。

ここでは、奉納行列という動作の表現がほとんど放棄されていて、行列の前進という局面は、3つの人物グループ前後の空間的段階づけによってのみ暗示されている。しかし、それも画面中央で中断され、この不規則性が中心人物の両側で奥方向への空間的段階づけを導く。

この集中式構図自体は、アプシス中央のキリストの構図と比較できる要素である。しかし、これと異なり、皇帝モザイクの画面は二重の構造を持っている。集中式構図がフリーズ式構図の上に被せられているのである。つまり、上部構造としての正面性が、直接的な表現動機である奉納行為を包括しているのである。その結果、奉納儀式の行列という一時的要素は、正面性が持つ無時間性によって帳消しとなっている。

このような特殊な行列表現の成立を理解するためには、先行するラヴェンナの諸聖堂における行列表現の伝統を振り返る必要がある。ラヴェンナにおいては、行列は水平の壁面区分の規範的な、おきまりの装飾主題であった。ラヴェンナの先行作例との比較から、サン・ヴィターレ聖堂の皇帝モザイクでは、正面性と行列の動きとは、一つに重ね合わせられ、時間的に前後する要素が同時に表されていることが判明する。ここでは、移動は人物像の足の位置や腕のポーズからかろうじて推定されるのみで、動きの表現はほとんど完全に消えている。物語叙事的な（進行を説明する）側面観から、レプリゼンタティブな（荘重な効果著しい）正面観への転換が、徹底的に行われたのである。

ところで、この皇帝モザイクのような難解な作例の場合、解釈すべき芸術作品の前段階と後継作品を尋ね、我々の分析が発展的に正しいかどうか、検証してみる価値がある。実際、ラヴェンナの皇帝モザイクは500年以上も後にヴェネツィアのサン・マルコ大聖堂のモザイクにおいて受け継がれ、また、15世紀ヴェネツィア派絵画においても、ラヴェンナの子孫が見出されるのである。他方、時代を遡って、ラヴェンナの行列表現の祖先系列を探ってみると、特に、初期ローマの浮彫り彫刻の中には、すでに、正面観の行列表現を予告する作例が見出される。

ラヴェンナは、後代のヴェネツィアがそうであったように、古代末期において東方の影響のゲートウェーであった。ラヴェンナの芸術をハイブリッドなもの、単なる東西混合として捉えることは、歴史的現象を正当に評価するとは言えない。それよりももっと深刻な、真相の誤認は、ラヴェンナのモザイクをコンスタンティノーブル自体では失われた初期ビザンティンのモニュメンタル絵画の

代用として扱うことにより引き起こされる。実際、ラヴェンナの芸術は、東方の諸中心地で達成されたものの単なる地方版以上のものであった。だからこそ、ラヴェンナの芸術は、西洋中世の芸術言語の形成に独自の創造的貢献を成し得たのである。

#### ・プロフィール

1942年 長野県に生まれる

1965年 東京藝術大学美術学部芸術学科卒業

1965～72年 ウィーン大学哲学部に留学、博士号 (Dr.phil) 取得

1973年 国立西洋美術館研究員 (文部技官)

1979年 東京藝術大学美術学部芸術学科助教授

1991年 第13回フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞 (ドイツ)

2010年 同大学を定年退職

現在 同大学名誉教授

専攻 西洋美術史 (ヨーロッパ中世美術)

著書 *Die Genesisminiaturen in der Wiener "Histoire Universelle"*, Wien 1973

*Die frühmittelalterlichen Wandmalereien der St. Georgskirche zu Oberzell auf der Bodenseeinsel Reichenau*, 2 Bde., Berlin 1999

『挿絵の芸術—古代末期写本画の世界へ』 (朝日新聞社、1989年)

『線描の芸術—西欧初期中世の写本画を見る—』 (東北大学出版会、2001年)

『ヨーロッパ中世美術講義』 (岩波書店、2001年)

『西洋美術論考—古代末期・中世から近代へ』 (中央公論美術出版、2002年)

『ヨーロッパ美術史講義 風景画の出現』 (岩波書店、2004年)

『ヨーロッパ美術史講義 中世彫刻の世界』 (岩波書店、2009年)

『ヨーロッパ美術史講義 デューラーの芸術』 (岩波書店、2012年)